

# 西区在宅ケア連絡会活動報告書 (XIX)

令和2年4月(第245回)～令和3年3月(第253回)



第248回例会

札幌市医師会西区支部  
西区在宅ケア連絡会

## 目 次

I	はじめに .....	3
II	発足までの経緯 .....	3
III	開催状況 .....	4
IV	出席者 .....	5
V	検討結果 .....	6
VI	おわりに .....	15

## I はじめに — 平成 12 年 6 月 発行分 —

平成 6 年から 8 年にかけて社会的に多くの議論がなされた。それはその後急速に高齢社会が到来し、社会環境も変化し、地域における市民相互の共生が求められるであろうということ、また、在宅療養支援に対する要望も高まり、地域ぐるみでの多くの分野のサービス間の連携が求められるようになるであろうということ、そしてこれらのことにどのように対応するのが良いのか、という議論であった。

## II 発足までの経緯

平成 8 年 12 月発刊の札幌市医師会医療システム検討調査委員会報告書 - 在宅療養について II - において、在宅療養者のもつニーズ情報、サービス提供者のもつサービス情報そして医療提供者のもつ医療情報が一つにまとめられ個々への対応が検討される体制づくりが望ましいとの提言がなされたが、具体的な活動の動きをみることはできなかった。(略)

この会の活動目的は、以下のとおりとされた。

- 1 西区内に在住し、在宅療養を希望する人の、在宅療養推進のための連絡調整をはかること
- 2 各施設、機関から現在の問題点の調整を求める提案をすること
- 3 希望者の在宅ケアのサービスメニューを作成すること
- 4 医療を希望する人の主治医をさがすこと
- 5 医療機関相互の連携を推進すること
- 6 活動結果の見直しを継続的にこなうこと

活動報告書(II)のために — 平成 17 年 10 月 発行分 — (略)

～ (略) ～

活動報告(XIX)のために — 令和 4 年 3 月 発行分 —

この活動報告書(XIX)は、第 245 回(令和 2 年 4 月)～第 253 回(令和 3 年 3 月)の活動報告を掲載し発刊したものである。ただし、札幌市医師会西区支部認知症ケアに関する研修会として開催された第 249 回例会(令和 2 年 10 月)「認知症の普及啓発を考えよう～西区地域ケア推進咸宜の紹介」については、活動報告書(XVIII)として、令和 3 年 3 月に発刊されている。

令和 2 年 3 月以降、新型コロナウイルス感染症感染拡大のためその後の活動は多大な影響を受けた。しかし、例会参加者の要望に応じて工夫しながら幹事会が開催されて企画の検討を行い、感染状況に合わせて会議室および web ハイブリッドなどを組み合わせて開催された。

「西区在宅ケア連絡会」の活動の原点である「どんな病気や障害があっても住み慣れた地域で安心して暮らせる」という目標は、コロナ下にあっても全く同様であり、むしろ在宅療養の意義について考えさせられることは数多く、「地域包括ケア」全体を念頭においた上での活動は、非常に有意義であった。なお随時、札幌市医師会西区支部が札幌市から委託された在宅医療介護連携推進事業の活動との合同開催とした。

なお、ホームページ(<https://www.zaitaku-care.info>)および Facebook ページ(<https://www.facebook.com/renrakukai>)が開設されている。

(幹事会 坂本 仁)

### III 開催状況

令和2年4月（第245回）～令和3年3月（第253回）の開催状況は次表の通りであった。

回	開催日	テーマ・特集
245	4.3～8	オンライン在宅ケア連絡会（中央区在宅ケア連絡会との合同企画） 「新型コロナウイルス感染症を乗り越えよう！」 ファシリテーター 静明館診療所 大友 宣さん zoomを活用し、提供サービス種別に4回に分けて開催（4.3/4.6/4.7/4.8）
	5.14	【中止】 感染対策に関してメーリングリストを用いて情報共有
	6.11	【中止】 コロナ禍における開催条件、PPEの分配などについて、メーリングリストを用いて検討
246	7.16	【在宅医療提供体制整備事業による事例検討研修会】 「コロナ禍における患者さん・利用者さんの体調変化」 事例提供：勤医協札幌西区病院 吉澤 朝弘さん
247	8.6	【在宅医療提供体制整備事業による事例検討研修会】 「コロナ禍における患者さん・利用者さんの体調変化 part2」 ～地域で暮らす認知症の方はどうなっているのか？ 事例提供：札幌市西区役所保健福祉部保健福祉課保健支援係長 高野 園子さん
248	9.10	【在宅医療・介護連携推進に係る啓発等事業 多職種連携意見交換会】 「コロナ禍の地域高齢者と介護者の実態を明らかにしよう。各事業所の状況も共有しよう。」
249	10.8	【札幌市医師会西区支部認知症ケアに関する研修会】 「認知症の普及啓発を考えよう～西区地域ケア推進会議の紹介」 ・普及啓発用資材（リーフレット）作成の経過と活用状況 西区保健福祉部保健福祉課保健支援係 保健師 鈴木 まりさん ・認知症カフェについて 介護予防センター西町 菊地 伸さん ・在宅ケアに関する社協の各種事業について 札幌市西区社会福祉協議会 事務局次長 加藤 洋介さん ・札幌市医師会在宅医療・介護・認知症サポートセンターについて 札幌市医師会在宅医療・介護・認知症サポートセンター 看護師 鈴木 聡子さん ・北海道医療センター認知症疾患診断センターについて 北海道医療センター 地域連携室 看護師 有馬 佑子さん
250	11.12	【在宅医療提供体制整備事業による事例検討研修会】 「西区地域包括ケアと地域医療構想～事例から考える北海道大野記念病院の連携と役割」 講師：北海道大野記念病院 院長 大川 洋平さん
	12.10	【延期】 施設内感染対策についてメーリングリストを用いて情報交換
251	1.21	【札幌市医師会西区支部地域ケアに関する研修会】 「地域ケアに役立つ感染予防対策」 講師：北海道医療センター 感染管理認定看護師 八谷 有香さん
252	2.18	「西区地域包括ケアと地域医療構想～事例から考える札幌山の上病院の連携と役割」 『札幌山の上病院形成外科－創傷治癒専門訪問診療の可能性－』 講師：札幌山の上病院 形成外科診療部長 藤 雄大さん
253	3.11	「西区ケア連で多職種との交流を深めよう～zoom会議の経験も増やそう」 ブレイクアウトセッションを活用したグループワーク

#### IV 出席者

令和2年4月(第245回)～令和3年3月(第253回)の職種別の出席状況は次表の通りであった。

COVID-19感染症の拡大により5・6月例会が中止、12月例会が延期となり、開催できた例会は合同開催を含め9回であった。また、例会の開催方法も従前の区民センターに一堂に会しての開催から、zoomを利用したオンラインのみの開催(245回合同例会)や、会場とオンラインを併用したハイブリッド開催(247～253回例会)へと変わった。

回	開催日	医師	歯科医師	看護師・保健師	P T	O T	S T	S W	社会福祉士・ 薬剤師	ケアマネ	ヘルパー・ 介護福祉士	サ責・セ長・ 管理者	教員・学生	行政・団体職員	その他	合計
245	4.3～8	オンライン在宅ケア連絡会 中央区在宅ケア連絡会と合同開催														85
—	5.14	COVID-19感染拡大に伴い中止														
—	6.11	COVID-19感染拡大に伴い中止														
246	7.16	2	1	4	1	0	0	1	2	3	1	1	0	0	1	17
247	8.6	2	1	7	1	0	0	1	3	3	1	1	0	3	1	24
248	9.10	5	1	8	5	3	3	9	17	6	1	5	0	2	8	73
249	10.8	7	1	6	6	5	4	4	17	3	3	4	0	4	6	70
250	11.12	3	1	5	5	3	1	5	11	4	1	7	0	0	5	51
—	12.10	COVID-19感染拡大に伴い延期														
251	1.21	4	1	8	2	1	1	3	53	5	1	5	0	1	4	89
252	2.18	4	1	2	2	1	1	4	16	8	1	4	0	1	2	47
253	3.11	4	1	5	1	2	1	0	3	6	1	6	0	0	2	32
合計	—	31	8	45	23	15	11	27	122	38	10	33	0	11	29	488
平均	—	3.875	1	5.625	2.875	1.875	1.375	3.375	15.25	4.75	1.25	4.125	0	1.375	3.625	54.22

※第245回は合計のみ集計



## V 検討結果

### ■第245回例会

オンライン在宅ケア連絡会（中央区在宅ケア連絡会と合同企画）

テーマ：「新型コロナウイルス感染症を乗り越えよう」

日時：令和2年4月3～8日 zoom 開催

令和2年4月3日（金） 通所系サービス

デイサービス・デイケア・小規模多機能型居宅介護など

令和2年4月6日（月） 居住系施設

サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム・グループホームなど

令和2年4月7日（火） 訪問系サービス

訪問看護・訪問介護・訪問入浴・訪問リハビリテーションなど

令和2年4月8日（水） その他

ケアマネジャー・地域包括支援センターなど

参加者：85名

COVID-19 感染拡大の中、中央区在宅ケア連絡会と合同で「新型コロナウイルス感染症を乗り越えよう！」をテーマに zoom を用いて開催し、参加は延べ47事業所、85名だった。4日間にわたり、通所系サービス、居住系サービス、訪問系サービス、ケアマネジャー・地域包括支援センターに分けて議論したが、通所系サービスと居住系サービスでは利用者にクラスターが発生しない工夫と職員の健康管理が重要で、訪問系サービスやケアマネジャー・地域包括支援センターは職員のクラスター対策と、クラスターが発生しても事業継続できる組織体制、利用者への感染対策が重要な点だった。活発に議論されたが、何より収穫だったのは皆それぞれ新型コロナウイルス感染症を乗り越えようと頑張っている姿に共感できたことだった。以下主な意見を列挙する。

#### ○濃厚接触しない！

- ・すべての職員、利用者、出会う人と濃厚接触しない

#### ○職員の体調管理をしっかり！

- ・就業前+就業時に検温
- ・発熱、呼吸器症状、味覚嗅覚障害が見られる場合は出勤しない
- ・職員が不要不急の外出をしない
- ・職員のストレス対策も必要
- ・出勤時、訪問から帰ってきたときには手指衛生徹底

#### ○職員のクラスター対策は盲点になりやすい！

- ・職員の密集をさける
- ・直行直帰を多くする
- ・テレワーク、在宅勤務できる環境づくり
- ・会議を少なくする
- ・事業所メンバーをグループ分けして感染者が出ても事業継続できるようにする
- ・事業所閉鎖になったときのために患者をリスト化しておく

#### ○利用者・家族の体調管理をしよう！

- ・利用者は朝+サービス提供時検温
- ・家族は不要不急の外出をしない
- ・家族のストレス対策も必要
- ・食事を食べて、水分をしっかりとってもらおう
- ・認知症の人は生活リズムがなるべく崩れないように

#### ○利用者の手指衛生に気をつけよう！

- ・利用者の手指衛生を手伝う
- ・利用者の手指衛生はアルコールの方が簡単

#### ○職員も利用者も食事のときは感染が起きやすい！

- ・なるべく離れて座る、対面にしない
- ・時間的に分散させ30分ずらして提供する
- ・アクリル板などおいて飛沫を防ぐ

#### ○環境消毒・換気は必須です！

- ・次亜塩素酸 Na(200ppm) で1日数回消毒
- ・ドアノブ、手すり、ボタンなどは特に消毒
- ・机や椅子も消毒
- ・1～2時間に10分程度換気

#### ○マスクをつけるのにも工夫があります！

- ・職員も利用者も全員にマスクするとみんなつける
- ・白いマスクや黒いマスクは認知症の人が怖い

#### ○職員も利用者も車での感染に気をつけよう！

- ・換気を常にする

- ・ 使用後次亜塩素酸 Na で消毒
  - ・ 車に入るときにアルコール手指消毒
  - ・ 車の中の消毒は 200ppm 程度の次亜塩素酸 Na を圧縮式スプレーで散布
- 必要な物資が足りなくなりやすい！
- ・ アルコールの使用は利用者の手指消毒を優先
  - ・ 職員はせっけんで手指衛生を行う
  - ・ 環境消毒は次亜塩素酸 Na
  - ・ マスクは発熱者対応に優先、布製、サージカルマスク再利用も組み合わせて
  - ・ 医療材料がこれから入りにくくなる
- 施設を新型コロナウイルスから守ろう！
- ・ 家族はなるべく入居者に面会しない
  - ・ 検温、手指消毒、マスク着用で、面会する場所を限定する
  - ・ 部外者の入館者・面会制限をする
  - ・ 致し方なく入る場合、検温、マスク、手指衛生し場所限定
  - ・ 居住者を棟ごとや階ごとにブロック化すると全体に広がらない
- 訪問先では自分も利用者も新型コロナウイルスを持っていると思え！
- ・ 訪問先でマスク・手袋着用、処置前後でアルコール手指消毒もしくは手洗い
  - ・ 感染対策用のグッズを用意（帽子、ゴーグル、N95 マスク、ガウン、手袋《代替品も可》）
  - ・ 自分も利用者もすべての人はコロナウイルスを持っていると思いついて対応
  - ・ 聴診器、血圧計、電子カルテを毎回消毒
  - ・ 血圧計、体温計はできるだけ患者の自宅のものを使用
  - ・ 診察のタイミングと電子カルテ入力のタイミングを分ける
  - ・ 利用者の原因不明の発熱や肺炎は新型コロナウイルス感染症として対応
- ケアマネ業務はシンプルに！
- ・ 担当者会議は必要最小限にし、照会等やテレビ会議で対応
  - ・ 訪問を希望しないときには電話の聞き取り、照会等で対応

## ■5月例会

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため例会は中止した。

感染対策に関して幹事会メーリングリストを用いて情報共有していた。

## ■6月例会

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため例会は中止した。

コロナ禍における例会の開催条件、北海道医療センターから提供された PPE の分配などについて幹事会メーリングリストを用いて検討していた。

## ■第246回例会

【札幌市医師会西区支部事例検討研修会】

日 時：令和 2 年 7 月 16 日（木）18:30 ～

会 場：西区民センター 1F 会議室

参加者：17 名

テーマ：「コロナ禍における患者さん・利用者さんの体調変化」

事例提供：勤医協札幌西区病院 吉澤 朝弘さん

### ○ケース

85 歳男性。高次機能障害でグループホームに入居中で、在宅医療を利用していた。この施設では、緊急事態宣言解除後も入居者を全く外出させることがなかった。医療機関では電話診療で処方を受けていたために、本人の体調変化は生じていないと認識していた。訪問を再開したところ実際には、廃用が進行し嚥下機能低下も生じ摂食量が以前の 1/3 程度に低下していた。それから数日後に屋内で転倒。大腿骨頸部骨折受傷し手術を行い現在は入院中。

### 意見交換：

- ・ 電話診療に因る弊害が生じたケース。電話診療でのコミュニケーションの難しさがある。
- ・ 今回のように利用者さんの外出自粛が生じ、廃用が進行しているケースは他にも多くある。
- ・ 高齢者の親と子の二人暮らし。コロナ禍で主介護者である子どもの収入が途絶え、親の年金を頼りに生活することになった。そのため介護サービ

スの利用料が払えなくなり、介護サービスが利用出来なくなったケースもある。

- ・各介護事業所にはアルコール等の衛生材料が行き届いていない。
- ・訪問系サービスではPPEが足りていない。
- ・コロナ禍における地域の変化について今後も共有していく

## ■第247回例会

【札幌市医師会西区支部事例検討研修会】

日時：令和2年8月6日（木）18:30～

開催：西区民センター 1F 会議室 & web ハイブリッド開催

参加者：24名

テーマ：「コロナ禍における患者さん・利用者さんの体調変化 part2 地域で暮らす認知症の方はどうなっているのか」

事例提供：札幌市西区保健福祉部保健福祉課

保健支援係長 高野 園子さん

7月に続き、コロナ禍における住民の方々、特に認知症高齢者の状況を確認し合うことを目的に開催した。

### ○ケース1

- ・75歳の女性、夫と息子の3人暮らし。息子は日中就労している。
- ・本人は老人福祉センターに毎日のように通っていたが、コロナの外出自粛期間に通えなくなり5月下旬頃より認知機能の低下、精神的に不安定となり便失禁などがみられるようになった。
- ・対応に苦慮している夫より地域包括支援センターに相談が入り、包括が訪問実施。要介護認定を申請し、今後はデイサービスの利用を予定している。内科にかかりつけがあるが、認知症専門医の受診も調整中。

### ○ケース2

- ・83歳の女性、夫と2人暮らし、子供は遠方に居住している。
- ・もともと夫婦で地域の介護予防活動等に活発に参加していたが、2年ほど前から物忘れが出現しアルツハイマー型認知症の診断を受け通院中。

・本人はスポーツジムに通うのを習慣にしていたが、コロナの影響でスポーツジムが閉鎖。出掛ける場所が無くなり、家に閉じこもるようになる。気持ちも落ち込んでいる様子。

・夫から区役所に相談あり。本人の様子が心配であるのに加え、家事の負担が大きいとのこと。

・夫婦で介護保険を申請し、ヘルパー（料理・掃除）を利用して夫の負担軽減と、本人の更なる認知機能低下を防ぎ、気分転換を図るためデイサービスの利用を勧める。

### ○ケース3

・82歳の女性、二世帯住宅に夫と息子夫婦と居住。息子夫婦とは関係性が悪く、生活実態は別々。

・脳血管性認知症の診断を受け通院中。要介護3。週3回デイサービス利用中。

・夫は本人のデイサービス利用中に1人で外出して気分転換をしていたが、コロナの外出自粛の影響であまり外に出られず、ストレスが溜まっている様子。

・R2.5月、デイサービス利用時に妻の身体にアザがみつき、夫の介護負担増大や虐待リスクが高いケースとして関係機関から相談あり。（⇒その後、本事例は虐待ではなかったと判明）

・介護や本人への接し方についての助言、夫の相談相手の確保を目的とし訪問看護の利用を勧める。

退院調整の実例

◆第2波4月中旬ころより～高齢者施設・医療機関での発生

- ・すでに転院調整をされていた方
- ・ADLの低下している方
- ・新型コロナウイルス感染症により身体状況が悪化した方

退院基準を満たした段階で退院・転院が可能か？

転院先や、施設の受け入れ準備の必要性

★受け入れ先の確保 ★受け入れ条件の確認

247 回例会

意見交換：

通所介護サービスの休止や、利用の差し控えなどにより、認知症の方が体調変化を生じていることは予想されていたが、介護サービスだけではなく、老人福祉センターやスポーツジムも利用できなくなったことを共有。又、外出しなくなったこ



とで、本人だけではなく、介護者の体調にも変動を来し、中には虐待が疑われたケースもあったことが分かった。私たち医療と介護の事業所職員は、自分たちもコロナ禍の影響を受けている中、患者さんや利用者さんの変化に気付き適切に対処していくことの重要性を確認し合い終了した。

## ■第248回例会

【札幌市医師会西区支部多職種連携意見交換会】

日 時：令和2年9月10日（木）18:30～

場 所：西区民センター 3F 大ホール & web ハイブリッド開催

参加者：73名

テーマ：「コロナ禍における地域高齢者と介護者の実態を明らかにしよう。各事業所の状況も共有しよう。」

本年度のこれまでの取り組みを通して、高齢者本人のみならず介護者にも大きな影響が生じていることが分かっている。又、各事業所にも影響が及んでおり、今回は高齢者本人及び介護者を支える役割を果たすことが求められている私たち自身の状況についても意見交換を行った。

通所介護の利用を控えたことにより介護者の負担が増し、結果として虐待が疑われた事例や、面会制限の続く施設や病院から在宅復帰している実情が報告された。感染対策に関連して、利用者の発熱時対応で訪問看護に負担が強いられている事例が増えている実態も共有。利用者減により小規模の事業所では経営的にひっ迫しているのではないかとのコメントもあった。



病院からの退院にあたっては、従来であれば入院中に外出を行うなどして住宅改修を行うところ、医療機関による外出禁止の指示により本人不在で調整を進めなければならない事例もあるとい

う厳しい実態が共有された他、オンラインも活用して退院前に必ずカンファレンスを開催している病院に対する感謝の声も上がっていた。

オンラインも併用しながら多人数が集まることにより、次々と新たな課題が見えて来た。感染対策のために〇〇は出来ないと機械的に拒否するだけではなく、利用者・患者のために何が必要なのかという立場で共に考え相談していくことが今後求められると確認し合った。



会場で30名、webで40名以上の方が参加し、積極的な報告が行われ、zoomを用いたオンライン意見交換会としても無事終了した。

次回以降もweb併用で、更に充実した研修会となるよう準備することを確認した。

## ■第249回例会

【札幌市医師会西区支部認知症ケアに関する研修会】

日 時：令和2年10月8日（木）18:30～

場 所：西区民センター 3F 大ホール & web ハイブリッド開催

参加者：70名

テーマ：「認知症の普及啓発を考えよう～西区地域ケア推進会議の紹介」



詳細は西区在宅ケア連絡会活動報告書 X VIII (2021.3 発行) に掲載。( <http://www.zaitakucare.info/wp-content/uploads/2021/05/277147941620cb362f3128574465d8d9.pdf> )

『リーフレット作成の経過と活用状況』

西区保健福祉部保健福祉課

保健師 天野 史江さん

『常設認知症カフェ、介護予防センターについて』

介護予防センター西町 菊地 伸さん

『在宅ケアに関する社協の事業について』

札幌市西区社会福祉協議会

事務局次長 加藤 洋介さん

『在宅医療・介護・認知症

サポートセンターについて』

在宅医療・介護・認知症サポートセンター

看護師 鈴木 聡子さん

『認知症疾患診断センターについて』

北海道医療センター 地域連携室

看護師 有馬 佑子さん

新たに作成したリーフレットの活用状況と認知症を取り巻く様々な機関で行われている事業について区保健福祉部・介護予防センター・社会福祉協議会・札幌市医師会・北海道医療センターより説明。

## ■第250回例会

【札幌市医師会西区支部事例検討研修会】

日 時：令和2年11月12日（木）18:30～

場 所：西区民センター 2F 大会議室 & web ハイブリッド開催

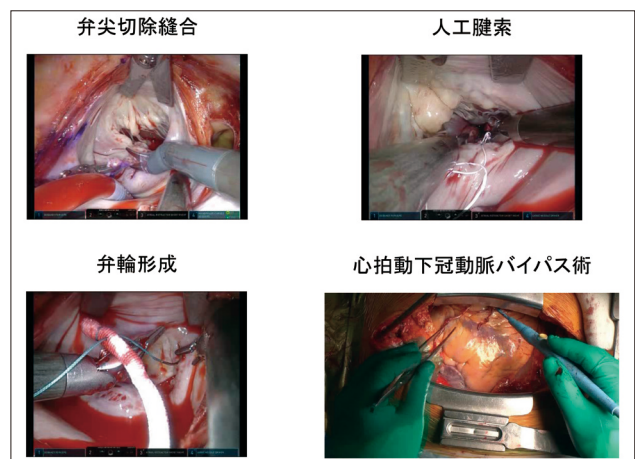
参加者：51名

テーマ：「西区地域包括ケアと地域医療構想～事例から考える北海道大野記念病院の連携と役割」

講 師：社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院  
院長 大川 洋平さん

団塊の世代が75歳以上となる2025年には、医療と介護のニーズを合わせ持つ高齢者が増大すると予想され、医療介護総合確保推進法により、医療と介護の一体的な提供を可能とする体制整備が進められて来た。地域医療構想は、急性期から回復期、慢性期まで、将来の医療ニーズの予測を踏まえ、関係者の協議によって地域に必要とされる医療提供体制の整備を進めるものである。一方、地域包括ケアシステムは、要介護の状態となっても可能な限り、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制構築を目指している。地域医療構想と地域包括ケアシステムは車の両輪の関係にあり、互いが補完しあうことで、医療と介護の連携を推進し、住み慣れた地域で最期まで生ききることを保障するものである。

札幌市医師会西区支部と西区在宅ケア連絡会では、これまで医療機関・施設などの状況を共有し、ぐるぐる図をイメージしながら、これからの西区に求められる医療機関や介護事業所等の在り方に



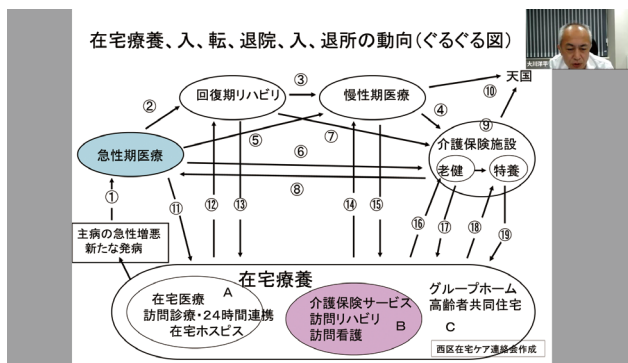


ついて意見交換してきた。今回は北海道大野記念病院院長の大川洋平さんより講演いただき、地域の中の医療機関の連携と役割について検討した。

北海道大野記念病院はがん、脳卒中、心臓病の三大疾病と運動器疾患に対する高機能な医療機器を用いた総合医療を提供していることが特色で、具体的には、高度医療機器の導入、集学的がん治療の取り組み、心血管疾患の最新治療、最先端の脳治療、健康診断・人間ドック「高度健診センター」が挙げられる。先生は画像を多くご準備いただき、特に実際の手術の動画を供覧後、以下2事例を提示された。

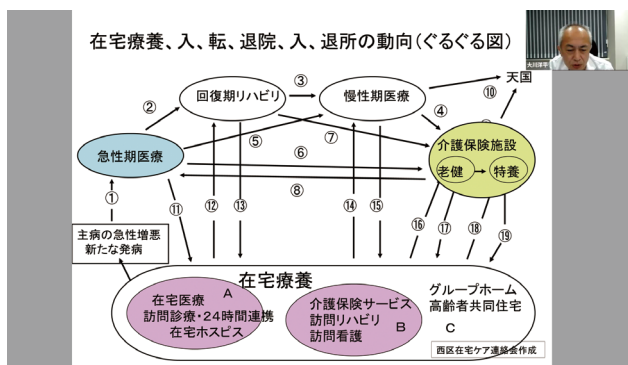
### ○ケース1

50代女性。両側性進行乳癌、多発椎体転移、両側癌性胸膜炎。余命は当初2か月と診断。放射線と抗がん剤による加療し、リハビリ行いコルセット着用で試験外泊を経て退院準備。要介護4と認定され、電動ベッド導入、介護サービス導入し自宅退院。現在はコルセット外れ通院中。



### ○ケース2

89歳、女性、要介護1、独居、訪問看護・訪問診療利用。自宅玄関で倒れているのを発見され救急搬送。慢性心不全、慢性腎不全はそれぞれ積極的治療の適応あったが、本人は拒否。自宅での



生活を望んでいたが認知機能低下により薬剤管理困難で家族居住地の施設に入所。

質疑応答ではリハビリテーションや、手術を含めた治療について質問が出され、活発に意見交換された。最後に大野記念病院の特色の確認を依頼されると共に、今後も地域医療における役割を十分に発揮し、医療と介護を含めた地域との切れ目のない連携に取り組んでいきたいと参加者に向けて呼びかけられ、結びとされた。

今後も西区内の医療機関をはじめ介護サービス等の状況を確認し合い、医療と介護の連携を更に強くすることの必要性を確認することが出来た研修会となった。

### ■12月例会

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため例会は延期した。

「高齢者施設における施設内感染対策のための自主点検について(その2)」(令和2年9月30日厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室ほか)をもとに、施設感染対策についてメーリングリストを用いて情報交換・検討。



### 参考 URL

- ・令和2年4月7日付け事務連絡  
社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について (<https://www.mhlw.go.jp/content/000619929.pdf>)
- ・令和2年4月15日付け事務連絡  
サージカルマスク、長袖ガウン、ゴーグル及びフェイスシールドの例外的取扱いについて (<https://www.mhlw.go.jp/content/000622421.pdf>)

・令和2年5月4日付け事務連絡

介護老人保健施設等における感染拡大防止のための留意点について (<https://www.mhlw.go.jp/content/000627557.pdf>)

・令和2年6月30日付け事務連絡

高齢者施設における新型コロナウイルス感染症発生に備えた対応等について (<https://www.mhlw.go.jp/content/000645119.pdf>)

・令和2年7月31日付け事務連絡

(別添) 高齢者施設における施設内感染対策のための自主点検実施要領 (<https://www.mhlw.go.jp/content/000657094.pdf>)

・令和2年8月7日付け事務連絡

高齢者施設における新型コロナウイルス感染者発生時等の検査体制について (<https://www.mhlw.go.jp/content/000658015.pdf>)

■第251回例会

【札幌市医師会西区支部地域ケアに関する研修会】

日 時：令和3年1月21日(木)18:30～

場 所：西区民センター 3F 大ホール & web ハイブリッド開催

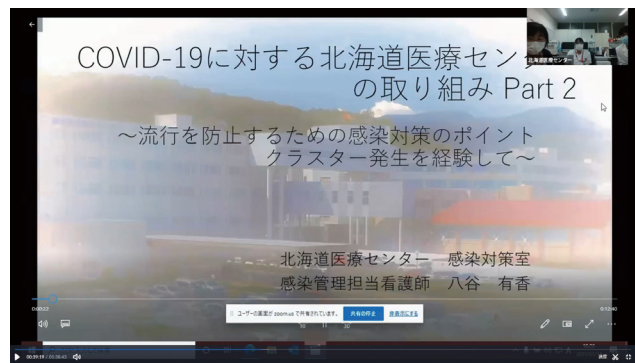
参加者：89名

テーマ：「地域ケアに役立つ感染予防対策」

講 師：国立病院機構 北海道医療センター

感染管理認定看護師 八谷 有香さん

札幌市ではCOVID-19の拡大が続くとともに感染者の発生を経験した事業所も増えている。私たち西区の医療機関や各事業所においては、それぞれ独自に感染予防対策を講じているが、不安や疑問を抱えながら地域ケアに携わっているのが現状。これまでの経験を共有し、今後も引き続き在宅療養者を支援する上で、役に立つ感染予防対策を検討することが求められている。



今回は北海道医療センターによって製作された動画を視聴した後に、参加者全員で活発にディスカッションを行い、感染予防対策に必要な内容を検討した。八谷さんからは、①外部からの持ち込みを防ぐ②1例目を迅速に発見する③感染拡大の範囲を最小限に抑えることが大事と指摘された。





質問の概要を以下に記す。

1) 感染予防のため使用するアルコールで手が荒れる場合、手が荒れない代替品があれば教えて頂きたい。2) 急性期病院からの転院に際し、PCR検査を積極的にお願いするようになったが、紹介元病院によっては不必要ではないかと指摘される(紹介元病院の検査実施の基準と異なるため)。資源の乏しい慢性期病院としては、外部からの持ち込みを防ぐことを重視している。このような対応はよろしくないか? 3) 入院前のスクリーニングで直近2週間前の体調管理を依頼しているが、認知症やその他の理由で記載してもらえない場合がある。直近2週間の体調管理はどのように考えれば良いか? 4) 陽性者と接触してしまった場合、濃厚接触者とならない基準があれば教えて欲しい。5) 呼吸リハ、嚥下リハ(それぞれ評価も含む)がマスクを付けて行うことができず、非常に難渋している。課題をクリアしている病院などがあれば紹介して欲しい。6) 訪問歯科診療をしています。訪問診療、訪問看護など、患者さん個人の居宅に、訪問する時に、気をつけなければいけないことが、あったら教えて欲しい。

上記の他、新型コロナウイルスの特性、職員の健康管理等について意見交換した。今後は、北海道医療センター地域連携室と西区在宅ケア連絡会ホームページが窓口となり、メールで質問を受け付ける。

感染管理認定看護師さんの回答を質問者にお返しするが、質問と回答をまとめたQ&A集を西区在宅ケア連絡会ホームページに掲載し、順次更新予定。

- ・北海道医療センター地域医療連携室  
101-renkei-2@mail.hosp.go.jp
- ・西区在宅ケア連絡会ホームページ  
<https://www.zaitaku-care.info/>

## ■第252回例会

日時：令和3年2月18日(木)18:30～  
場所：西区民センター2F大会議室 & webハイブリッド開催

参加者：47名

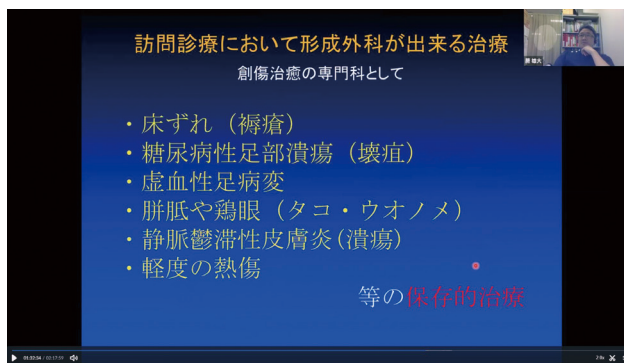
テーマ：「西区地域包括ケアと地域医療構想～事例から考える札幌山の上病院の連携と役割 『札幌山の上病院形成外科 - 創傷治癒専門訪問診療の可能性 - 』」

講師：医療法人 札幌山の上病院

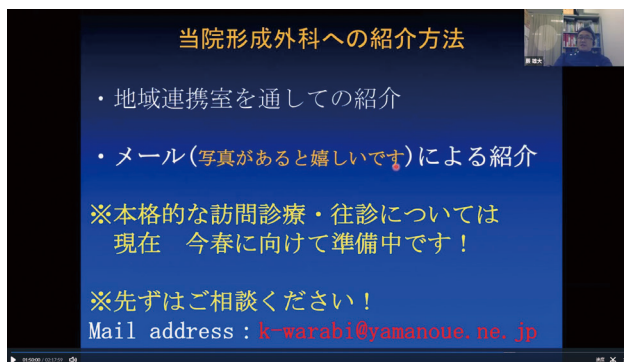
形成外科診療部長 藤 雄大さん

これまで、医療機関・施設などの状況を共有し合い、ぐるぐる図をイメージしながら、これからの西区に求められる各事業所の在り方について「西区地域包括ケアと地域医療構想」と題して意見交換を積み重ねて来た。

今回は札幌山の上病院の藤雄大さんから講演いただいた。内容は、札幌山の上病院についての説明、形成外科診療の内容、創傷治癒専門訪問診療の提案。



どういう様子なら在宅で見ていけるのか、どういう方を訪問診療で診てもらえるのか、理解が深まった。普段対応に困っている患者さんや利用者さんの在宅療養支援のため、又一つ支え手が増えた実感できた例会だった。



## ■第253回例会

日 時：令和3年3月11日(木)18:30～

場 所：西区民センター 2F 大会議室 & web ハイブリッド開催

参加者：32名

テーマ：「西区ケア連で多職種との交流を深めよう～zoom会議の経験も増やそう」

西区では、平成9年の早期から、在宅療養希望者のニーズ情報、サービス提供者のもつサービス情報、医療提供者のもつ医療情報を共有・活用し連携調整をする目的で、保健・医療・福祉などの分野から在宅医療・介護に携わる有志が集まり、人と人とのつながりを基盤とした多職種連携を目指し、札幌市医師会西区支部の下、西区在宅ケア連絡会を立ち上げた。以来例会は250回を超え、多職種協働のネットワークは広がりと共に深まりを見せ、地域の様々な諸課題について意見交換し、新たな仕組みを提案し作り上げるところにまで至っている。

一方、今年度は、コロナ禍で多職種連携活動も制約を受けている。西区では感染対策を講じwebと会場とのHybrid形式での開催を続けてきたが、参加者の皆さんに多事業所の多職種の方々との連携を深める機会として有効だったのだろうか。

顔の見える関係を元に人と人とのつながりを大事にしてきた西区在宅ケア連絡会では、この度、原点に戻って多職種間の交流を重視し、zoomのブレイクアウトルーム機能によりグループごとに交流した。自己紹介と近況報告の後、西区在宅ケア連絡会に何を期待するかなど、互いに質問し合い交流を深めていただきながら、互いの人となり理解し合う機会になったことと思われる。今後も西区在宅ケア連絡会では多職種間での交流も重視していきたいと確認し合い終了した。

## VI おわりに — 平成 12 年 9 月 発行分 —

平成 8 年 4 月、札幌市医師会西区支部有志が集まり、「西区内での保健、医療、福祉の連携により、在宅療養者支援のために、とにかく実際に役に立つことができないか」と話し合ったのがきっかけとなり、準備を重ね、平成 9 年 8 月、第 1 回「西区在宅ケア連絡会」が開催された。その後ほぼ毎月一回開催を続け、平成 12 年 6 月、第 30 回開催にまで至った。(略)

3 年間に 100 余例の検討を行い、数多くの成果が得られ、また非常に豊富で実際に効果的な情報交換がなされたが、実は最も価値のある結果は、「人と人とのつながりができたこと」であり、顔を合わせて話しをすることが連携の第一歩であることが如実に示されていると思われる。(略)

在宅療養者を支援するための、地域におけるネットワークを形成しようとする活動は全国的にも数多く報告されているが、「西区在宅ケア連絡会」はそれらの活動の中でもあくまで純粋、普遍的活動であることが、本報告書をお読みいただくと良く理解していただけるとと思われる。これらの純粋性、普遍性、そして継続性は今後も参加者全員の一貫した姿勢として持ち続けることができるものであり、また参加者自身による新たな発想、積極的な活動によりさらに発展していけるものと確信している。普遍的活動であればこそ、将来にわたっていろいろな可能性を秘めた活動であり、今後も各分野の多くの方々の参加が望まれている。(略)

活動報告書(Ⅱ)のために — 平成 17 年 10 月 発行分 — (略)

～ (略) ～

活動報告(XIX)のために — 令和 4 年 3 月 発行分 —

この活動報告書(XIX)は、西区医在宅ケア連絡会の第 245 回～第 253 回の活動報告を掲載し発刊したものである。

新型コロナウイルス感染症の蔓延が懸念される中、あらためて地域包括ケアシステム構築が求められている。そして、札幌市医師会は札幌市からそれを目標とした委託事業を受け、在宅医療介護連携推進事業に取り組んでいるが、「西区在宅ケア連絡会」の活動は実質的にこの事業を網羅していることが報告書からも読み取ることができる。

当会の活動はますます重要になっていると思われるので、従来 of 報告書での記載と同様に、再度「さらなるご参加へのお呼びかけ」をさせていただきます。

(幹事会 坂本 仁)



発行：令和 4 年 3 月

問い合わせ：札幌市医師会西区支部 在宅療養部 吉澤 朝弘

西区在宅ケア連絡会 幹事 坂本 仁

<https://www.zaitaku-care.info>

e-mail : [info@zaitaku-care.info](mailto:info@zaitaku-care.info)

※本冊子は札幌市医師会の助成により発行されました。

